

# もりおか歴史文化館 開館一年を

## 振り返る

〜まちなか観光とこれから〜



「盛岡城跡公園散策ツアー」へと繰り出す参加者たち

「あつと」易い「あつと」

「あつという間でしたね」

館長の畑中美耶子さんがそう話すように、同館はオープン以降、盛岡の歴史と文化を知る観光拠点としてさまざまな活動を試みてきました。

「ここは、単なる歴史博物館ではなく人々の交流の場。盛岡を訪れた人がまずはここで情報を得て、街なかを歩き帰っていく。あるいは城歩きの後にここで一休みして帰っていく。館長である私の役目は、皆さんを盛岡弁でお迎えしお見送りすることなんですよ」

そう微笑む畑中館長の言葉通り、同館は「もりおか・城と城下町ワールドミュージアム」がコンセプト。同館を中心に、盛岡城跡や街なかに



スタッフ一人ひとり、身近な距離で来館者を迎えます

広がる活動展開を行っています。「よくおでんした」「またおでんしてくんせ」と語る畑中館長の盛岡弁は、訪れる人々に対する盛岡らしいおもてなしの形です。

昨年は、アジア方面からの文化視察、平泉の世界遺産登録が弾みとなった外国客も多かったとのこと。今年7月1日時点の来館者数は、25万8251人を記録しました。これに対し畑中館長は「健闘した」と言いながらも、修学旅行のスタンダードコースになるように周知の努力が必要だと気を引き締めます。

### 盛岡の歴史を 身近な視点から学ぶ

同館には、盛岡市中央公民館から移した南部家ゆかりの貴重な資料が所蔵されています。昨年はこれらを中心にした常設展示のほか、盛岡の歴史をひもとく企画展を開催しましたが、展示のしかたにも工夫を凝らしています。例えば、南部家秘蔵の甲冑もその一つ。武将が腰を下ろした状態で、正面だけでなく後ろ側に回り込めるような展示は、細かな造り



1年を振り返る畑中館長

学芸員 小西治子さん

当館には歴史や民俗、文化財修復などを専門とした4人の学芸員がおり、歴史・文化を学び研究する一方で、市街地に足を運べるような情報を発信していきたいと考えています。42人のボランティアさんも毎日精力的に活動してくださっています。

また、盛岡を起点に、県北や県南と連携した企画展も行っていきたい。DC期間中に開催された「安倍氏伝」は、平泉との関わりがなかで盛岡を知ってほしいという意図がありました。盛岡には知的好奇心の高い方が多く、ここで学んだ知識をベースに自分で調べ、電話でいろいろ報告してくれる方もいます。それがまた嬉しくて。地域の方々と近い関係にある学芸員でありたいと思います。展示室にある盛岡城のジオラマを見たあとは、ぜひ、実際の石垣を見に公園へ出かけてほしいです。



「2階の城下町絵巻シアターでは、盛岡の方言の入った音声と、資料「増補行程記」をもとにした映像で当時の街並みを知ることができます」と小西さん

アテナントリーダー 新田英子さん

館内をはじめ、お食事からお土産など盛岡の街歩きをどう楽しんでいただくか。私たちは、そのための案内係です。1年間手さぐりで進めてきた仕事ですが、最近改めて思うことがあります。来館する方々は、盛岡を訪れる目的がいろいろ。観光だけでなく大切な用事のついでかもしれないし、車で一人旅の方かもしれない。盛岡では、私たちが最初で最後の会話相手かもしれません。失礼のないように、どうやって一期一会のおもてなしができるか。自分の対応一つで、盛岡の印象が変わる可能性があることを忘れずに努めようと思います。

ご来館された方に「どちらからですか」と伺うと、「地元なんで、すみません」と申し訳なさそうに仰います。盛岡人の人柄の良さを感じます。



「学芸的な知識とはまた別に、ソフト面での対応が自分たちの役目」と新田さん。アテナント7人で来館者の対応をします

をじっくり多角度から観察できます。「書状一つとっても、教科書には載らない歴史の一片を間近に見ることができず。歴史講座もかなりの人気です。定員が埋まるほどです。盛岡の歴史を語れる人が地元が増えることで子ども達にも伝わり、自分の故郷に誇りを持つことができずばらしい。その手助けになることをいろいろ考えていきたいですね」と畑中館長。

展示や講座に留まらず、盛岡に伝わる昔ながらの生活文化を体験できるイベントが多いのも同館の特徴です。例えば、伝統芸能の演舞、昭和の遊びや生活行事体験、盛岡城跡公園散策ツアー、夏の夜に開催したナイトミュージアム探検など。実は、盛岡市内の小中学生と65歳以上は無料入館できるのですが、まだ知らない人も多いそうです。ここは、子どもから大人まで、地元の歴史を広く深く学べる場なのです。

街なかにある意味

「他県からみれば岩手県すべてが被災地でしたが、盛岡は大丈夫でした。ここを足掛かりに、皆の『支援の思いを表す場』として動くことができました。沿岸の被災地からも多くの方がきて屋台を出したり伝統芸能を披露するなど、立ち上がって動き出す姿を多くの人に見てもらえる場となったようです。街の中心地にあったからこそ、役にたてました」

6月で一区切りを迎えたいわてDCの期間中も多くの人が集まりました。特に六魂祭では同館をトイレス



甲冑をはじめ、数々の南部家家宝の見学にも新しい発見があります

「いいんです。街なかになんかという開放的な場所は意外と少ないもの。散歩の休憩だったり、おいしい店や観光スポットを聞きに来たり、気軽に中に入っていたいだけ」

「いいんです。街なかになんかという開放的な場所は意外と少ないもの。散歩の休憩だったり、おいしい店や観光スポットを聞きに来たり、気軽に中に入っていたいだけ」



盛岡弁で語る昔話

「何度か訪れるなかで、自然に地元のことを知り学べる敷居の低い歴史文化館であることを目指します。」

さて同館のスタンスについて、畑中館長がわかりやすく話してくれましたので、ご紹介しましょう。

「雨が降ったら 歴史館

雪が降ったら 歴史館

かんかん照りにも 歴史館

ちよつと一休みに

おでつてくなんせ」

取材／「S.A.N.S.A」企画編集委員会